

高松塚古墳再整備検討の基本的考え方



平成21(2009)年11月30日 竣工後

高松塚古墳再整備検討の基本的考え方



現在の整備は、石室を墳丘に戻すまで(概ね10年をめど)の仮整備として平成21年10月に竣工したもの。

当面の間、墳丘に石室を戻さない方針となったため、史跡の保存と活用上、再整備を行う必要があるかどうか

1 現状と課題

平成21(2009)年11月30日 竣工後

高松塚古墳再整備検討の基本的考え方

石室を墳丘に戻すまでの期間を仮整備と位置づけ、そのため、これからも仮整備の状態を維持することを再整備の基本方針とする。

2 基本方針(案)

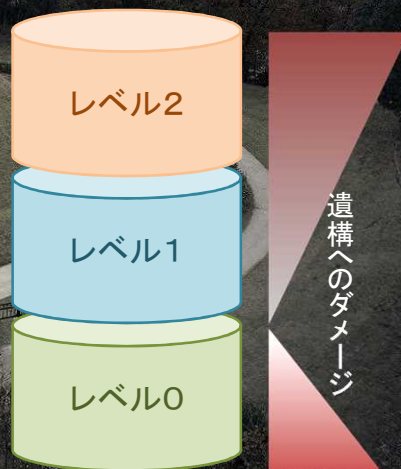
高松塚古墳再整備検討の基本的考え方

2 基本方針(案)

レベル1に加えて、当面の間、石室を墳丘に戻さないこととなったため、石室の無い古墳のデメリットを解消する目的で活用を重視した再整備を行う

レベル0に加えて、墳丘本体の残存遺構に影響を及ぼさない範囲で、最新の学術成果の反映や、活用上不都合が生じている部分について、再整備を行う

当面の間とする石室復旧までの期間中、生じるおそれのある保存上の問題に対する対策を行う



2 基本方針(案)

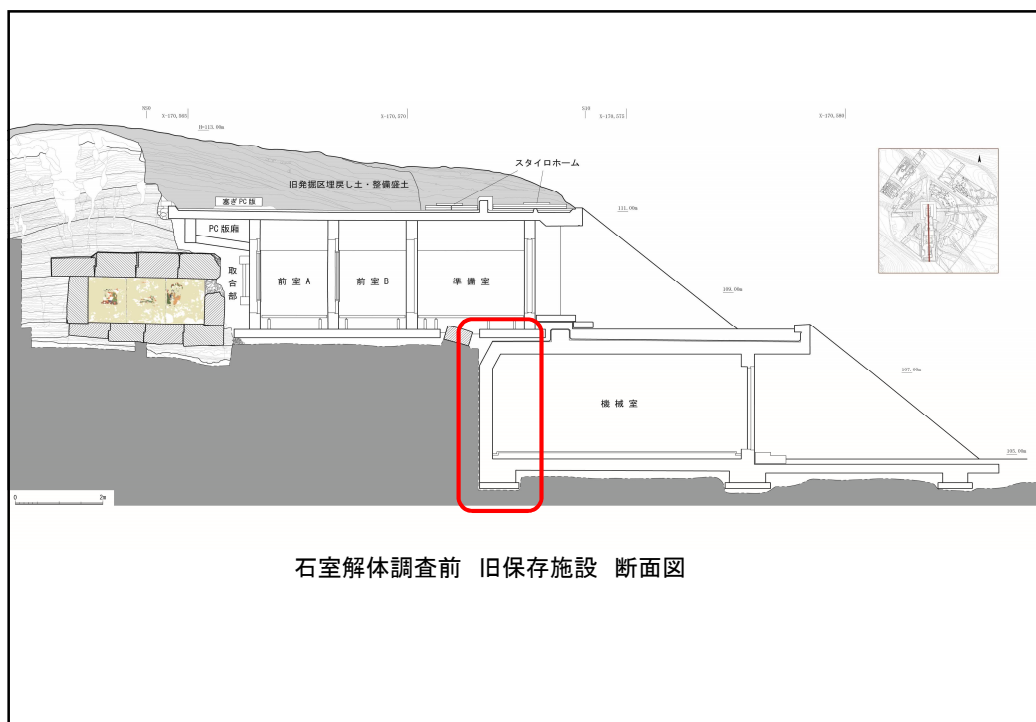
高松塚古墳再整備検討の基本的考え方

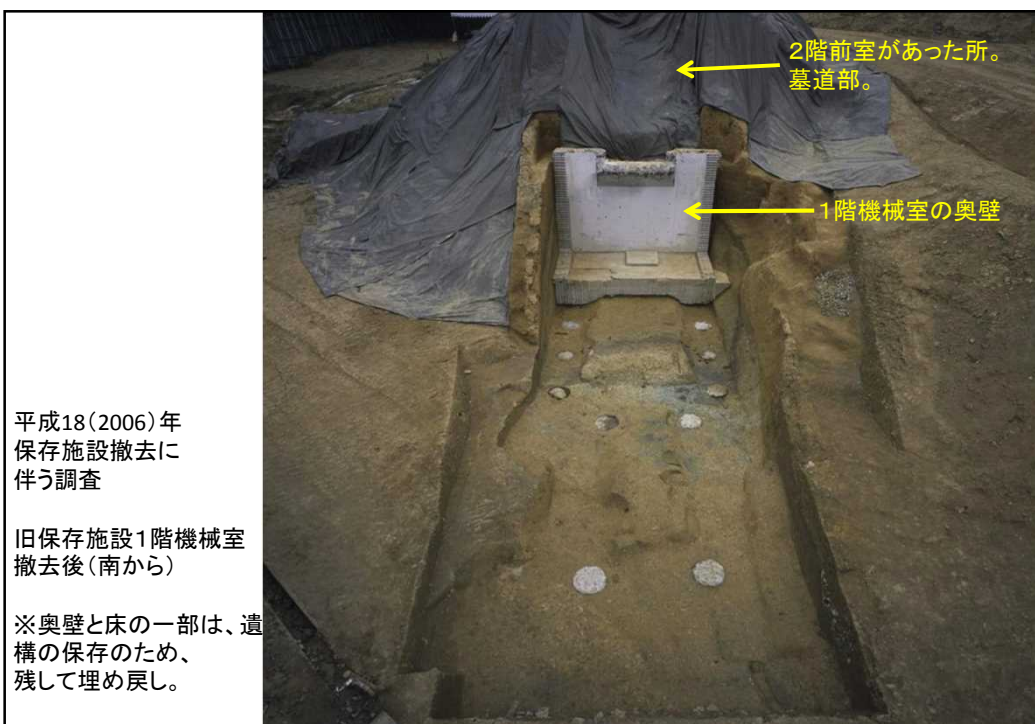
レベル0) 保存上の問題が懸念されるもの

ア) 仮整備時点での技術的問題で墳丘内に存置したもの
・ 旧保存施設の鉄筋コンクリート製奥壁
→ 現時点でも撤去は困難

イ) 将来の石室復旧に備えて墳丘内に存置したもの
・ 支保工、土のう、遮水シート、エスレンボード
→ 保存上、早急な撤去は不要
→ 石室復旧時に必要な施設

2 基本方針(案) レベル0







平成19(2007)年10月1日 石室解体調査区 下段埋め戻し後 北から



平成21(2009)年2月12日 墓道部 埋め戻し

※透水層となる不織布を敷き、崩落防止措置をとった

高松塚古墳再整備検討の基本的考え方

レベル1) 最新の学術成果の反映、活用上の不具合

→ 今後検討

2 基本方針(案) レベル1

高松塚古墳再整備検討の基本的考え方

レベル2) 活用を重視した整備

→ この場合も、残存遺構の確実な保存を第一とし、将来の石室復旧に障害となる整備は行わない

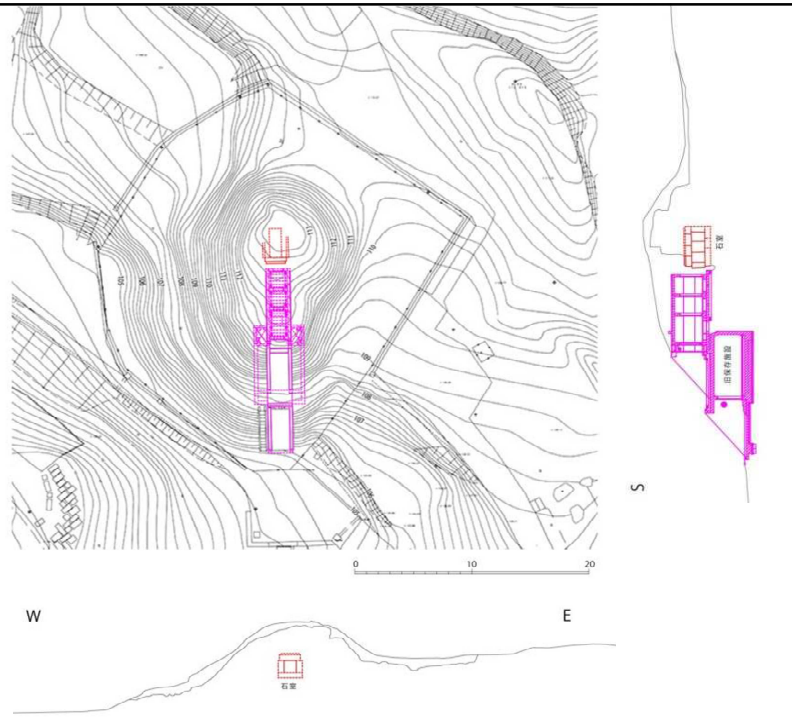
→ 石室復旧のために存置した施設があり、墳丘の再発掘を伴う再整備は残存遺構に与える影響が大きい

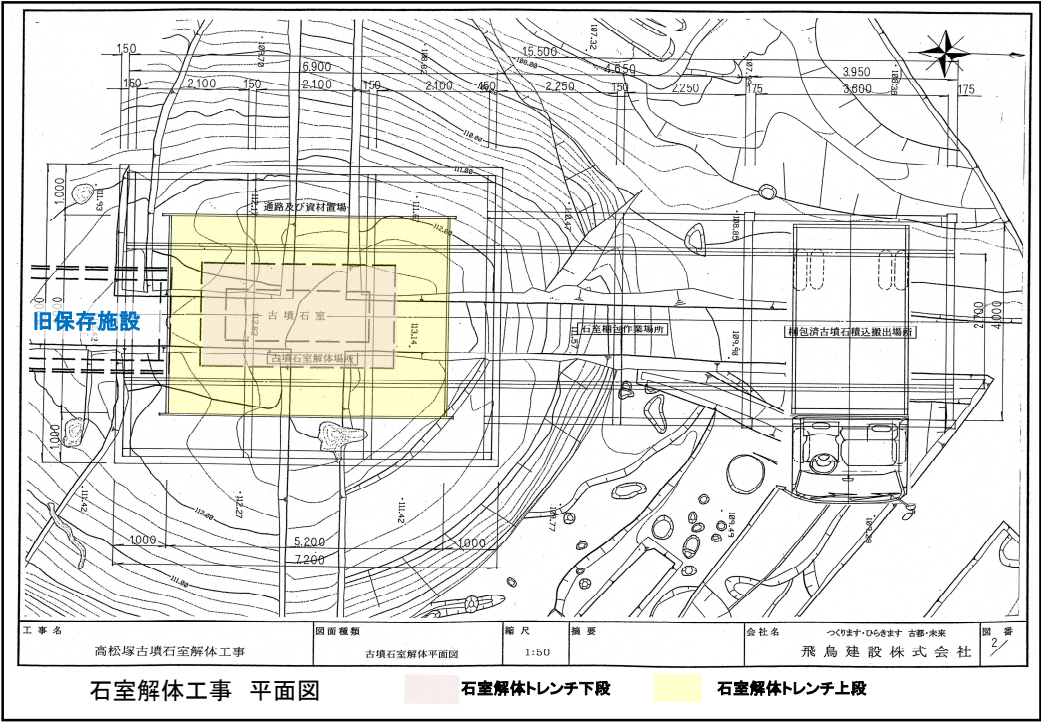
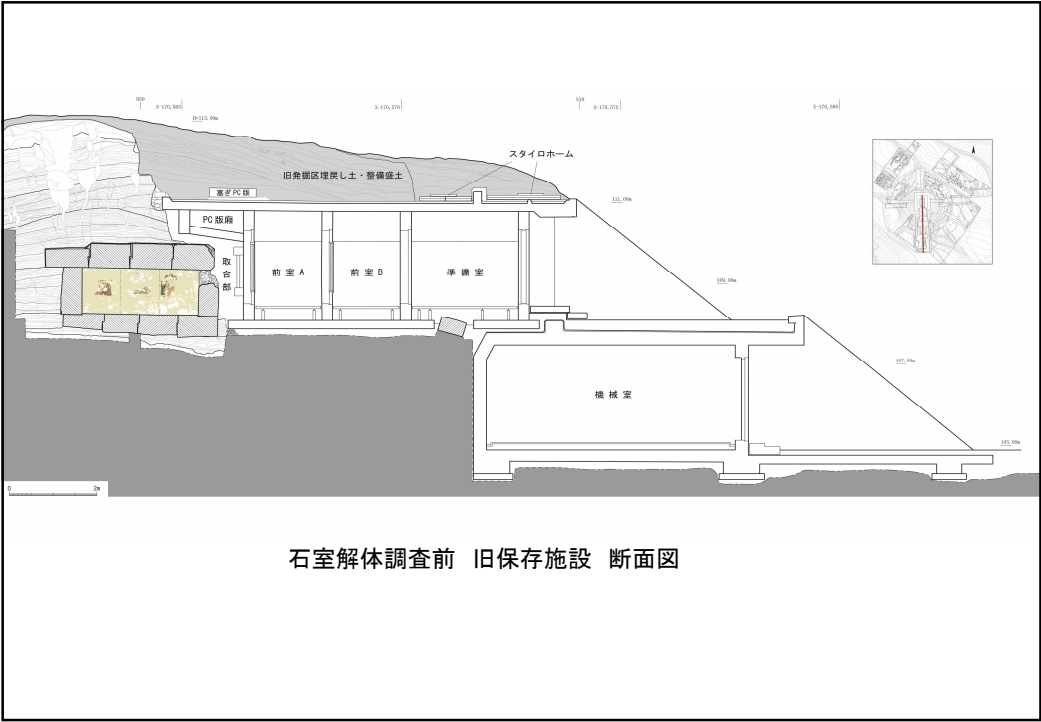
2 基本方針(案) レベル2

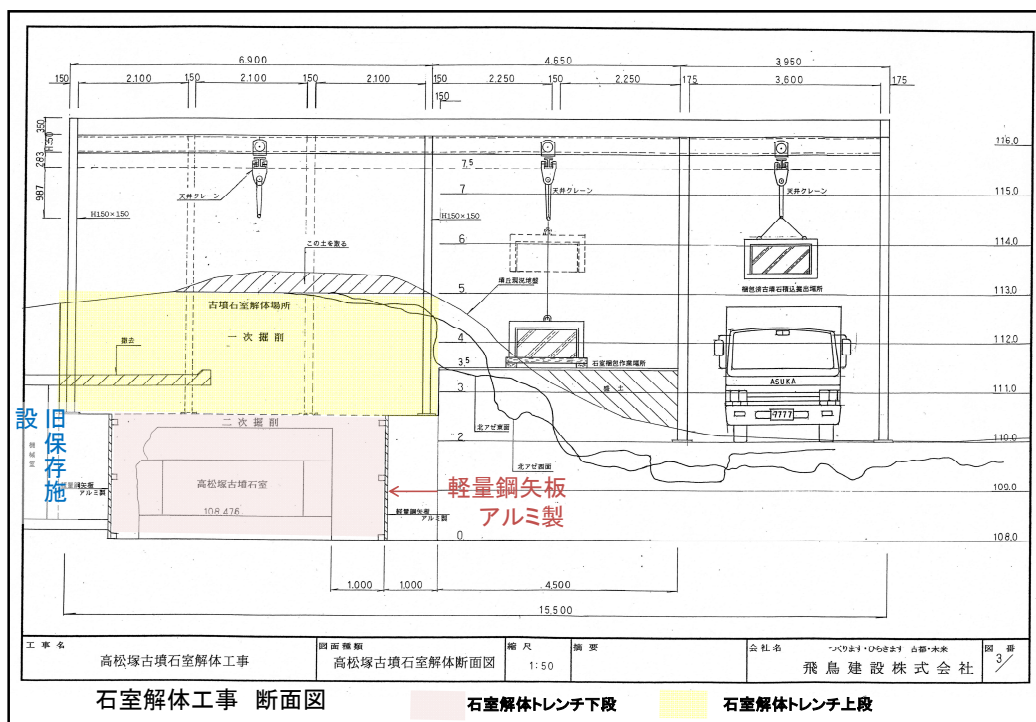
保存施設撤去前
平成18(2006)年



石室解体調査前
旧保存施設との関係







平成18(2006)年
保存施設撤去に
伴う調査

旧保存施設
2階前室 撤去後



平成18(2006)年12月10日 墓道部(南から) ※正面に、石室解体トレンチの支保工がみえる。
る。



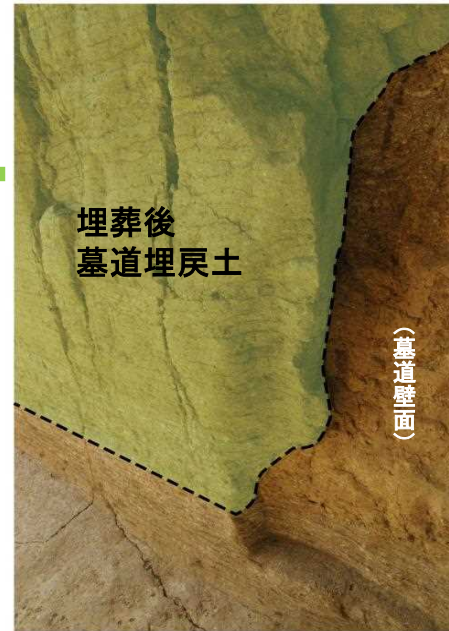
墓道部 東壁 遺構残存状況

※墓道壁面が地割れ・陥没しており、脆弱な状態にある。



墓道部 西壁 遺構残存状況

※埋葬後墓道埋戻土が西壁に残存する。
東壁では既に失われており、墓道壁面が露出している。



墓道部 西壁 遺構残存状況

※埋葬後墓道埋戻土が、墓道壁面に薄く、はりつくように残っており、崩落の危険性がある。



平成27(2015)年4月27日